

## 観光回遊調査に基づく歴史的観光地域の歩行危険性評価の試み -京都市清水寺周辺地域をケーススタディとして-

A Trial for Evaluation of Risk of Excursion at Historical Sightseeing Area from  
Sightseeing Behavior from the Case of Area around Kiyomizu Temple

○安井裕直<sup>1</sup>, 崔青林<sup>2</sup>, 酒井宏平<sup>3</sup>, 谷口仁士<sup>2</sup>, 鐘ヶ江秀彦<sup>4</sup>, 伊津野和行<sup>5</sup>  
Hirotda YASUI<sup>1</sup> Qing-Lin CUI<sup>2</sup> Kohei SAKAI<sup>3</sup>, Hitoshi TANIGUCHI<sup>2</sup> Hidehiko  
KANEGAE<sup>4</sup> and Kazuyuki IZUNO<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 日本ミクニヤ株式会社

Mikuniya Corporation

<sup>2</sup> 立命館大学歴史都市防災研究センター

Research Center for Disaster Mitigation of Urban Cultural Heritage, Ritsumeikan University

<sup>3</sup> 立命館大学政策科学研究科博士前期課程

Graduate School of Policy Science, Ritsumeikan University

<sup>4</sup> 立命館大学政策科学科

College of Policy Science, Ritsumeikan University

<sup>5</sup> 立命館大学理工学部都市システム工学科

Department of Civil Engineering, Ritsumeikan University

In historical sightseeing area, while old view of town are valued as sightseeing resources, environment to walk around faces several problem to deal with. Especially, concentration of sightseeing excursion worsens risk of walking and makes evacuation more difficult. However, in area surrounded by historical heritages, it is difficult to approach from the view of hardware of disaster mitigation. Therefore, this study tries to approach from the software way of disaster mitigation which could control sightseeing excursion. To analyse relationship between sightseeing behaviour and risk of excursion, This study conducted a survey at area around Kiyomizu-Temple

**Keywords :** *Historical Sightseeing Area, Risk of Excursion, Sightseeing Behavior, Kiyomizu Temple*

### 1. はじめに

世界の観光客数は 2010 年の 10 億人から 2020 年には 16 億人と伸び、確実に「右上がり」になると予測されている<sup>1)</sup>。まちづくりを取り巻く環境への考慮や今後の日本の国益を考えても、技術立国と並んで、観光立国も重要なキーワードになる。歴史的な建造物、有形・無形文化遺産を多数現存する歴史的観光都市の役割は益々大事になるだろう。歴史的観光地域では古い町並みが観光資源としての価値を有する一方で、歩行環境においては課題が残っている。特に観光回遊の集中は歩行危険性を高め、観光行動や災害時の避難行動に悪影響を及ぼしかねない。しかし、歴史的観光地域ではハード面での歩行環境の改善には困難が伴う。そのため、観光回遊をコントロールするなどソフト面からの防災アプローチも必要である。

そこで本研究では歴史的観光地域のソフト面からの防災提案に向けて、観光回遊特性と歩行危険性との関連性を分析するために、京都清水寺周辺地域を対象に観光行動・観光回遊に関する現地調査を行った。具体的には、京都市清水寺周辺の観光客の全体像（観光客の属性・観光形態など）を把握する観光調査および対象地域内の観光スポット・訪ねた施設・観光経路を把握する観光回遊調査をアンケート方式で行い、実態調査に基づく歩行危険性評価を試みた。

### 2. 調査地域とアンケートの概要

#### (1) 調査地域の概況

本研究では京都市内訪問地として長年一位をキープした清水寺の周辺地域を対象に、観光客に対する実態調査を行った。清水寺は京都市東山区の歴史的観光地域に位置し、昼間であれば、現地の住民よりも観光客の方が多い。ちなみに京都市東山区の住民は 2010 年 09 月 01 日現在、39868 人（男性：16827 人、女性：23041 人）、20488 世帯から構成されている<sup>1)</sup>。

東山区の歴史的観光地域は東西を東山連峰と東大道路に挟まれ、北は概ね四条通、南は五条通り（東海道）を区域としている。観光地域の東部は森林地域、西部の東大道路と鴨川の間は商業地域と隣接する。清水寺から円山公園までの地域の一部は三寧坂伝統的建造物群保存地区として国の認定を受けている。

#### (2) アンケート調査の概要

アンケート調査は観光客数が最も多い時期（11 月）に行われた。アンケート<sup>2)</sup>は三つの部分から構成される。調査票 pg. 1 ではおもに年齢、職業、住所、観光目的など観光客属性・観光行動および印象評価を問う内容である。pg. 2 では観光している最中に大規模地震災害が発生した想定で、初期対応などの防災意識と意思決定プロセスを問う内容である。pg. 3 では清水寺および隣接する歴史的観光名所を含めた当日の観光順序および訪れた

施設の種類の問う質問欄と自由記入欄（来訪施設の記入シートと観光経路記入地図に訪問施設および観光経路を記入するもの）である。調査票の配布は平成 22 年 11 月 13 日（土曜日）の 9 時から 14 時まで、清水寺周辺の各主要な参拝道で行った。今回は調査票を無作為に配り、郵送で回答票を回収する方式を取った。回答は一日の観光を済ませてから、自宅やホテルに戻られた後 pg. 1~3 の順番で行うように回答者をお願いした。

### 3. 集計結果にみる回答者属性とサンプリング検証

#### (1) 回答者属性

表 1 に調査回答者の属性を示す。女性が 7 割近くをしめ、50 代が最も多い。回答者の出発地を見ると近畿地方の割合は最も高いことが分かる。京都市東山区に住まれる方が 0 人、京都府内合計で 12.3% で、京都府以外では 87.7% である。

表 1：回答者属性

回答者個人属性		調査のサンプル数	割合 (%)	京都市観光調査年報 H22 (%)
全体		98	100.0	100.0
性別 (N=98)	男性	30	31.0	36.5
	女性	68	69.0	63.5
年齢 (N=98)	20歳未満	2	2.0	13.2
	20代	6	6.1	13.7
	30代	18	18.4	9.6
	40代	18	18.4	14.4
	50代	29	29.7	31.2
	60代以上	25	25.4	17.9
出発地 (N=97)	北海道	5	5.1	1.1
	東北	10	10.2	1.3
	関東	16	16.3	14.0
	中部	19	19.4	11.5
	近畿	37	37.8	61.2
	中国	4	4.1	4.9
	四国	3	3.1	2.4
九州	3	3.1	3.6	

#### (2) サンプリングの検証

今回はよりサンプリング数の多い京都市の観光調査年報<sup>3)</sup>の結果がより現状に近いものとして、性別、年齢と出発地の属性を H22 年度の年報と比較することで、サンプリングの検証を行った。

アンケート調査調査では年報の一か所あたりの調査平均サンプリング数 (800) を上回る 1000 部の調査票を配り、98 票の回答が得た。回収率 9.8% で、年報と同程度の回収率を得た。

サンプリング検証を行った結果、回答層の違いについて確認できた。京都市観光調査年報に対して、アンケートの具体的な回答者層の傾向として下記の 3 点が言える。

a) 女性の割合が 5% 程度高いこと、b) 20 歳未満と 20 歳代の回答率が 10% 程度低く、逆に 30 歳以上 (50 歳代を除く) の割合が高くなる、c) また他地域より近畿の方が回答率が低く、近畿より北のエリアは回答率が高い。

### 4. 回答者の観光行動

#### (1) 対象地域への来訪頻度

清水周辺への観光頻度は数年に 1 回の方が 42.0% で最も多く、次に多いのは年に 1 回以上訪れる方で 26.5% である。10 年以上訪れていない方と初めて来られる方で全体の 3 割に占めることが分かった。

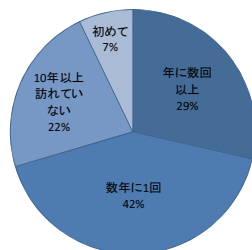


図 1: 来訪頻度

### (2) 主な観光行動

清水寺周辺地区に訪れた観光客の主な観光目的 (図 2) は、参拝が一番高く 8 割以上の回答率であった。参拝を答えた方の中で、参拝のみの方は約 4 割近く、残りの 4 割の方は参拝のついでに、買い物、飲食・喫茶などの行動も行った。また、参拝が主要目的ではない方も約 1 割強存在した。その他の記入欄では、慰霊供養の法要、写真撮影、舞子に变身、紅葉、観光ガイドとしての仕事などの記入があった。

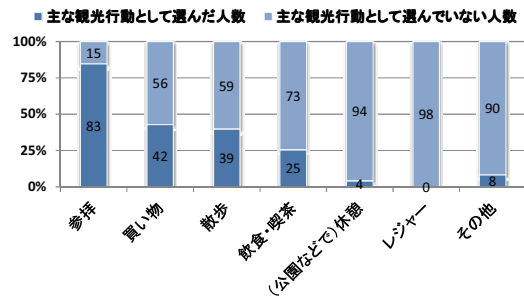


図 2：主な観光行動

#### (3) 滞留時刻

清水寺周辺地域での滞在時間は 1 時間以上 2 時間までは 36.7% で最も多い。続いて 2 時間以上 3 時間までで 21.4% である。2 時間以上の滞在は全体の 5 割近く、3 時間以上の滞在でも 3 割程度であり、長時間に渡る観光回遊も目立つ。

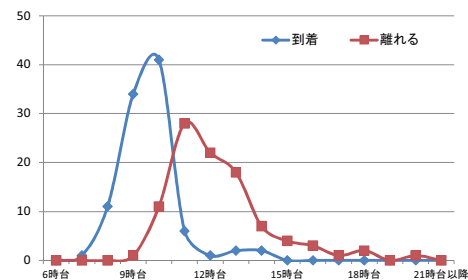


図 3：到着および離れる時間帯

#### (4) グループの構成人数

アンケートでは観光客にグループの人数を記入してもらった。今回は交通手段の選択などに影響する構成人数を考慮して、1 人、2-5 人、6-10 人、11-50 人、51-100 人、101 人以上の 6 区分でデータ (図 4) を集計した。

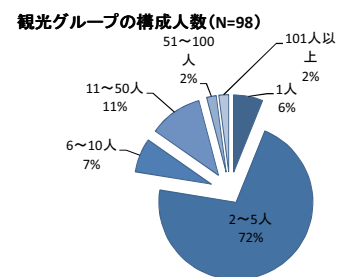


図 4: グループ構成人数

結果を見てみると、2-5 人のグループが最も多く全体の 72% である。11-50 人のグループが全体の 11% で、6-10 人のグループが 7%、1 人のグループが 6%、そして 51 人以上のグループが 4% となっている。

### 5. 回答者の観光回遊行動

#### (1) 各観光ブロック間の回遊状況

対象エリアを観光ブロック【1】 (円山公園, 知恩

院), 観光ブロック【2】(高台寺, 霊山観音), 観光ブロック【3】(霊山護国神社, 坂本竜馬の墓), そして観光ブロック【4】(清水寺)の4つの観光ブロックに分けた。回答者に各観光ブロック間の回遊状況について質問した結果(N=97)を図5にまとめた。73回答(全体の75.3%相当)は最初に観光ブロック【4】に訪れた。各11回答(全体の11.3%相当)は最初に観光ブロック【1】と【2】に訪れた。残りの2回答(2.1%相当)は最初に観光ブロック【3】に訪れた。そして最後に訪れた観光ブロックでは, 最も多いはブロック【4】で50回答(51.5%)で, 次はブロック【1】で29回答(29.9%)で, 【1】と【4】を合わせて8割以上を占める。各観光ブロック間の相互移動合計で見てみると, 最も多いのが【3】と【4】の36回答で, 最も少ないのが【1】と【4】の間の直接移動(7回答)ある。各観光ブロック間の回遊状況は図5に参考されたい。

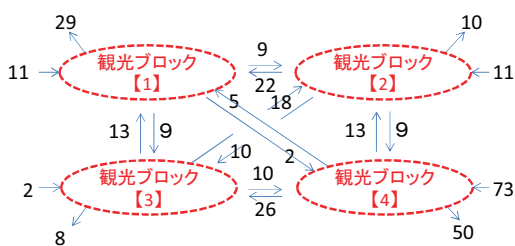


図5: 各観光ブロック間の回遊状況 (N=97)

回答結果を分析すると, 観光客は観光ブロック【4】を中心に対象地域での観光活動を行っていることが分かった。観光ブロック【4】は最も訪れた観光ブロックであると同時に, 観光ブロック【4】から観光を開始する回答者も観光ブロック【4】で観光を終了する回答者も最も多い。当日の観光スポット間の回遊実態に注目すると, 特にブロック【4】だけのパターン, ブロック【4】から【1】へのパターン, それからブロック【1】から【4】へのパターンが多かった。またブロック【4】だけのパターンを除いて, ついでに観光ブロック【2】, 【3】に訪れることが多いことが分かった。

## (2) 訪れた施設

本日に対象地域で訪れた施設の種類(表2を参照)について回答してもらった。回答を得た施設について結果を図5にまとめた。寺社・公園の選択が9割で最も高い。次に飲食店5割以上を占める。そのほかには食料品店, アクセサリー・雑貨や駐車場の利用などが上位に占めた。

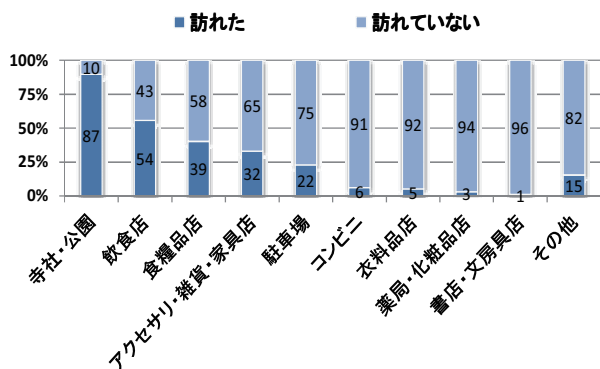


図6: 本日の観光で訪れた施設

自分が訪れた各施設への立ち寄り予定の有無, 消費活動の有無, 滞在時間などの質問について, 別紙の記入シートを用意し, 合計で71人の回答(表2)をもらった。合計270カ所(内142カ所は立ち寄り予定あり)に立ち寄り, 平均立ち寄り施設数は $270/71=3.8$ (箇所)である。合計130回の消費を行ったが, それぞれ立ち寄り予定ありで63回立ち寄り予定なしで67回だった。総平均滞在時間は一か所です約34分である。記入数の少ない衣料品店, 薬局・化粧品およびその他を除くと, 総じて消費ありの平均滞在時間が長くなる傾向があるが, アクセサリー・雑貨では消費ありの方が逆に平均滞在時間が短くなっている。

表2: 立ち寄り状況

施設種類	記入数:総人数(立ち寄り予定者)	消費人数:(立ち寄り予定者/非予定者)	平均滞在時間:(消費あり/消費なし)単位:分
衣料品店	1(1)	0(0/0)	0/60
飲食店	47(23)	26(10/16)	33/27
食料品店	33(20)	15(10/5)	83/33
電化製品店	-	-	-
パソコン関連製品店	-	-	-
DVD, CD販売店	-	-	-
アクセサリ・雑貨・家具店	33(14)	17(6/11)	27/50
書店・文具店	-	-	-
薬局・化粧品店	3(1)	1(0/1)	10/10
コンビニ	7(5)	7(5/2)	31/0
中古店	-	-	-
ゲームセンター	-	-	-
寺社・公園	114(64)	53(27/26)	33/29
駐車場	13(11)	3(3/0)	60/25
その他(上記以外)	19(3)	8(2/6)	13/17
合計または総平均	270(142)	130(63/67)	34

## (3) 内部エリアにおける観光回遊の実態

今節では対象とした歴史的観光地域の経路ネットワークの通過状態を考察する。利用するデータは自らの回遊経路を適切に記入してもらった観光経路調査シート(N=43)である。なお観光経路の集中状況をみるために, 観光客の記入したシートに基づき, 各経路での総通過人数を集計する。その結果(図7および表3), 特に二年坂, 産寧坂, 茶わん坂, 清水坂の市営駐車場から清水寺までの経路(図7経路ID5・6)に集中することが分かった。対象地域における観光客の行動パターンを表すためにいくつかの回遊事例として表4に示した。

## 6. 終わりに

本研究では, 歴史的観光地域における歩行危険性を観光回遊の視点から分析を行った。観光回遊調査により特定した混雑箇所は現地の混雑箇所と合致していることから, 現地の観光回遊経路の集中は各観光ブロック間の観光移動および店など施設の分布に影響されることが分かった。一方, 観光的価値が低い, 非常事態や歩行危険性を回避するために活用できる経路も存在することについて確認できた。また, 今回の基礎調査を通常時の歩行危険性の回避および非常時における効率的な避難につながるソフト防災の提案に生かしたい。

## 参考文献

- 総務省:平成17年度国勢調査
- 崔青林, 朴ジョンヨン, 谷口仁士, 鐘ヶ江秀彦, 伊津野和行, 関谷諒, 安井裕直:観光客の視点に立った歴史都市における地域防災に関する研究, その1:京都市清水寺周辺地域における観光行動に関する調査, 地域安全学会梗概集 No. 28 pp.15-18 2011.05
- 京都市産業観光局, 平成22年の京都市観光調査の結果について, 京都市観光調査年報, 2011年

表 3：経路ネットワークの通過人数 (N=43)

経路ID	矢印の方向	逆方向	合計	経路ID	矢印の方向	逆方向	合計
1	17	10	27	41	3	7	10
2	17	10	27	42	1	0	1
3	5	7	12	43	8	15	23
4	4	7	11	44	1	4	5
5	17	26	43	45	7	15	22
6	15	27	42	46	2	3	5
7	20	6	26	47	0	1	1
8	21	7	28	48	1	3	4
9	20	7	27	49	2	4	6
10	21	8	29	50	0	2	2
11	21	7	28	51	1	3	4
12	21	5	26	52	0	2	2
13	1	0	1	53	1	2	3
14	1	0	1	54	4	1	5
15	6	21	27	55	3	1	4
16	9	15	24	56	6	4	10
17	2	2	4	57	6	0	6
18	7	6	13	58	2	1	3
19	0	1	1	59	0	2	2
20	8	6	14	60	7	1	8
21	7	6	13	61	2	6	8
22	7	4	11	62	1	1	2
23	10	17	27	63	0	2	2
24	3	3	6	64	5	7	12
25	1	1	2	65	9	8	17
26	1	3	4	66	8	3	11
27	0	1	1	67	2	1	3
28	0	0	0	68	1	1	2
29	1	1	2	69	1	1	2
30	1	0	1	70	7	5	12
31	7	14	21	71	0	1	1
32	5	5	10	72	5	0	5
33	12	14	26	73	1	6	7
34	7	14	21	74	2	3	5
35	5	12	17	75	7	2	9
36	4	8	12	76	1	1	2
37	4	7	11	77	0	1	1
38	0	2	2	78	0	1	1
39	2	4	6	79	7	4	11
40	0	1	1	80	0	0	0

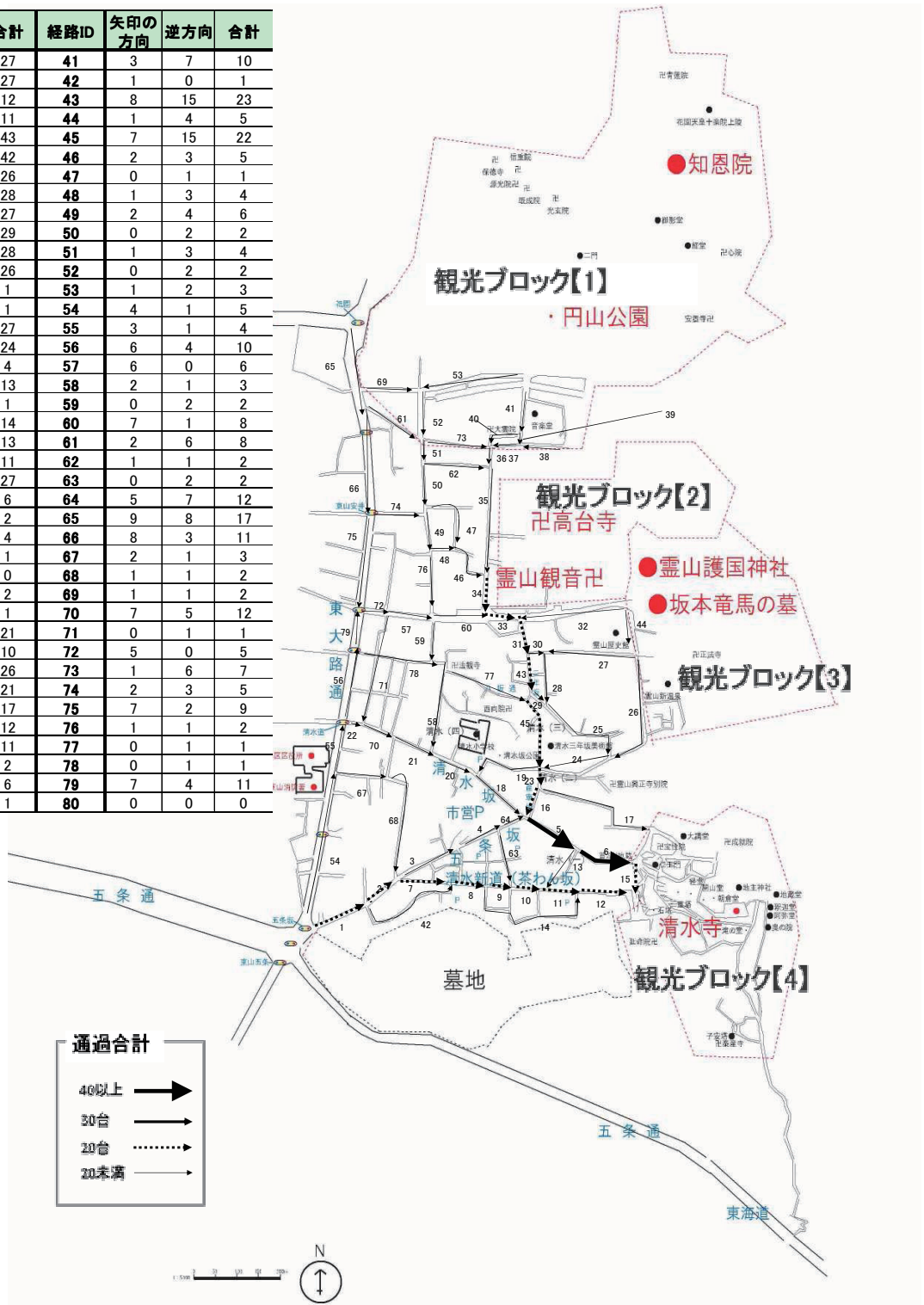


図 7：対象エリア内の観光回遊状態

表 4：観光客の回遊パターン例示

ID	観光ブロック	年齢	性別	グループ	訪れる頻度	目的	到着時刻	離れる時刻	回遊経路
017	[4]だけ	60台	男	2人(親子・兄弟)	10年以上来てない	参拝、写真	8:40	10:30	1,42,8,14,12,15,6,5,64,4,3,2,1
366	[1][2]	50代	女	3人(夫婦、子供)	年3回	買い物、飲食	9:50	13:30	41,39,37,36,35,34,33,31,43,45,23,16
720	[4][3][2][1]	50代	女	15人(同僚)	数年に1回	買い物、飲食、参拝	9:30	16:00	7,8,9,10,11,12,15,6,5,16,23,45,43,31,33,34,35,40,41
796	[3][4]	40代	女	20人(お客さま)	週2回	参拝、仕事	10:00	11:50	65,66,75,72,57,60,33,32,32,31,43,45,23,16,5,6
823	[3][4]	30代	男	1人	10年以上来てない	買い物、参拝	10:00	11:00	56,79,72,57,60,33,32,44,26,24,23,16,5,6,15,12,11,10,9,8,7,2,1
928	[4][3][2][1]	30代	男	2人(夫婦)	数年に1回	参拝、散歩	10:00	11:00	65,66,75,79,56,22,70,21,20,18,5,6,15,12,11,10,9,8,7,3,4,64,16,23,24,26,44,32,33,34,46,48